今年も少年の翼事業。川越から北海道・中札内へ。

川越市の「少年の翼」事業は今年で18回目。川越市内の中学校から選抜された生徒が北海道中札内へ。

中札内は川越市名誉市民　相原求一朗画伯ゆかりの土地。相原画伯が北海道の自然を描きつづき、中札内には「相原求一朗美術館」が開館された。この美術館オープンを契機に中学生交流がはじまった。

夏には川越から中札内へ。冬には中札内から川越へという交流だ。

中学生たちは現地で北海道らしい体験（アイヌ文化にふれたり、農場見学など）のほか日々デイスカッションの時間が設けられ、4泊5日の研修となる。令和元年8月19日から23日まで、市内各中学から男女1名ずつ、44名の交流団となった。

この事業には川越市内の４RC（川越ロータリークラブ・川越小江戸ロータリークラブ・川越西ロータリークラブ・川越中央ロータリークラブ）が事業に対する寄付を行っている。

翼でつながれた交流事業。生徒たちの瞳と心に北海道の大きな空は何をもたらすか。大変有意義な事業である。